

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	総合福祉ひまわり	代表者	荻須康正	法人・事業所の特徴	地域密着施設として、多治見市内、市之倉、諏訪住民、高齢者の昔馴染みの生活や、人間関係を大切に利用者利用者様一人ひとりの個別性に密着した個別ケアを行っています。利用者様ご家族の生活リズムに合わせて安心して毎日過ごせるようにご家族と連携を密にとっている。又レクも個別を重視し利用者様がいきいきと生活でき楽しみが増えるように支援している。ご家族の今までの生活が保てるように、ご家族に合わせて送迎時間は自由に組み合わせて行い早朝夜遅くはご家族での送迎も受け入れている。隣にある、幼稚園との交流が季節の行事に合わせてあり利用者様に大変喜ばれている。管理者、職員は常に利用者の立場になり思いを共有し、個別性を大切にした暮らしを提供している。					
事業所名	市之倉ひまわり 小規模多機能	管理者	小林日出世							

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	5人	人	人	1人	人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	在宅を勧めるための重要な事業所であり職員全員が自覚を持って業務にあたる。夜勤職員の獲得を続ける。	夜勤対応のパート職員が1名入職。グループホームの夜勤職員が不足の為、優先はグループホームになる。	スタッフ全員が取り組んでいる姿勢が見られる。「不易流行」の考え方方が見当たらない。「変える必要がある事業」。1歩踏み出すべき。	職員全員に小規模の役目、又介護技術の向上のための研修を進める。
B. 事業所のしつらえ・環境	駐車場の入り口に大きな看板を設置して福祉の事業所である事、福祉介護の相談が當時出来る事をお知らせする。ハイランド以外の市之倉町にも住所、電話番号を明記して看板設置を検討中。	駐車場の入り口に看板設置を検討したが費用がかかり過ぎるため既存の看板を、道路からも見やすくなるように検討中。	他の事業所と比べて周辺環境は優れていると思われる。事業の拡大やイメージチェンジをも考慮すべきだと思われる。高齢者一人暮らし、足腰の不自由な方が徐々に増加している。その方達が気軽に相談できる窓口を広く開く事が重要である。	現在、玄関に掲げてある事業所明記の箇所に、道路からも確認出来るアピール性のある看板に変更設置する。
C. 事業所と地域のかかわり	ボランティアの拡大と、ボランティアの訪問時、地域住民にもお知らせして参加出来るようにする。ひまわりカフェを充実させる。	ボランティアは少しづつ増えて来ている。地域住民にお知らせは出来ていない。カフェは内容的には充実してきている。	地域で活発に活動している「みどりの会」がある、自分達の行末や現状に不安を持っておられる方が多い。総会や月例会、各イベントで「ひまわり」の丁寧な活動内容を知ってもらい、会の方達の声（意見）を聞くと良い。地域の自治会の中で一番重要な団体である。賛助会員として参加しても良い。	ひまわりの1~2か月分の情報が発信できるお便り等、を作成し市之倉全体に配布出来るようにする。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	社長、施設長、職員が定期的に地域のサロンに参加して顔見知りになり相談窓口になる。市之倉町全体に広げていく。	外に向けての活動が人員不足が原因で消極的になっていて進められていない状況である。	利用者ではない施設近くの住民の相談に実際に訪問し対応している。(包括に相談があり 18 時近くであったが、当日すぐ対応しなくてはいけない住民の自宅を訪問しケアマネ、看護師、職員で問題を解決した)	引き続き社長をはじめ施設長、職員が定期的に地域のサロンに参加して顔見知りになり相談窓口になる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	利用者様の支援の中で参考になる事例研究等発表していく。随時、経営者から経営状況、将来展望、長期経営計画を示す。運営推進会議に毎回ご家族の出席を促して会議の貴重な体験を話していただき参考にしていく。	事例研究の発表をすすめている。具体的な将来展望、長期経営計画等は示す事はできていない。ご家族の出席は毎回出席は出来ていないが毎回声掛けはしている。	事例検討までは行われていないが話題にし気にかけていると思われる。	一年間の中で都合の良い月を聞き予定を立てて参加をしていただけるようにしていく。事例研究の発表を毎回続ける。
F. 事業所の防災・災害対策	地域住民参加の防災訓練の実施。町内会の防災訓練に参加する	現在ま出来ていない。	災害時、自治会も協力したいので、自治会の防災訓練にも参加してほしい。事業所のスタッフ不足により、地域行事に参加しづらいと聞いている。スタッフを確保し、地域行事へ参加出来るようになることを期待したい。	災害時とウイルス対策の備品を確保。ひまわり備蓄の非常食を使った炊き出しの開催。簡易トイレの使用方法の確認、現在の連絡網で夜間対応の訓練の実施。(夜間に行う)